

# 平成30年度第2回肝炎対策推進協議会 議事録

H31.3.5 18:00～19:15 厳櫃会館 2F 研修室1

## <議題>

### (1) 奈良県肝炎対策ガイドラインの目標値に対する進捗状況及び平成31年度肝炎対策事業(案)について

(主な質疑応答内容)

- <委員長> C型肝炎患者の減少は全国的な傾向だが、奈良県は減少率が低い方である。それぞれの医療機関で患者の拾い上げをしていただきたい。
- <委員長> 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業で申請のあった3件は、参加者証が発行される予定か。
- <事務局> 保険者に所得の適用区分を照会後、3件とも参加者証を発行する予定である。
- <委員> 奈良県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関は、広く認めているのか。勘違いして登録していない医療機関があるように思う。
- <事務局> 医療機関を集めて事業についての説明会を開催し、指定医療機関の登録を広く呼びかけた。
- <委員長> 肝臓専門医がいる医療機関は、指定医療機関になってほしいと思う。

### (2) 肝疾患相談センターからの報告

- <委員長> いろいろと取組みを行ってきたことや、専従医師を置いていることで、効果が出てきている。しっかりとフォローアップしていきたい。

### (3) 肝疾患診療体制及び平成31年度肝疾患に関する専門医療機関の選定について

(主な質疑応答内容)

- <委員> 中核専門医療機関の役割の「専門医療機関に求められる条件を満たしたうえで」の条件とは何か。
- <事務局> 3.専門医療機関の条件①～③を満たしたうえで、2.中核専門医療機関の条件①、②を満たしてほしいということである。
- <委員> 中核専門医療機関は、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関の指定を受けておくべき。
- <委員長> 肝疾患医療機関イメージ図では、中核専門医療機関と専門医療機関の境目は点線としている。中核専門医療機関には、肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会に来ていただき、国の方針等をしっかり地域に伝えるということが大きい役割と考えている。
- <委員> 二次医療圏ごとにリーダーを作っておくほうが良い。中核専門医療機関の役割に、「拠点病院と連携して」という文言を加えるとスキームがすっきりする。
- <委員> 肝疾患に関する専門医療機関の一覧で、日本肝臓学会の肝臓専門医等の人数を公表する意味は何か。人数を書くことで、多ければ良いとランキングを付けることにならないか。
- <委員> 患者としては肝臓専門医のいるところに行きたい。インターネットで調べれば肝臓専門医の人数は分かる。一覧表に人数を書くことで患者が左右されることはないと思う。
- <委員> 肝臓専門医の人数は奈良医療情報ネットで公開されており、人数を載せることに異論ない。
- <委員> 院内で肝炎医療コーディネーターを増やすよう心掛けている。人数を出すことに賛成する。

## <その他>

### ・患者委員からの要望について

(主な質疑応答内容)

- <事務局> 初回精密検査費用助成については全国と同じ要件である。定期検査の費用助成対象については、国は対象者を「肝炎ウイルスの感染を原因とする慢性肝炎、肝硬変及び肝がん患者(治療後の経過観察を含む)」としており、奈良県では、平成27年度以降に市町村、保健所で実施した肝炎ウイルス検査の陽性者でフォローアップに同意した方に対して検査費用を助成している。  
奈良県の肝炎対策に関しては、優先度の高い事業から取り組んでおり、今後、重症化予防推進事業の定期検査の費用助成対象の拡大については、近隣府県の取り組み状況等を見ながら、検討して参りたいと考えている。
- <委員> 全国どこでも同じように助成を受けられるよう、奈良県にも取り組んでもらいたい。